

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回お示しする以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ情報の利用をご了解頂けない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】経口抗菌薬使用削減の取り組みとその効果についての検討

【研究機関】愛媛大学医学部附属病院薬剤部

【研究責任者】飛鷹範明（助教、副薬剤部長）

【研究目的・意義】

近年、抗菌薬が効かない細菌が世界中で拡大しており、その原因として抗菌薬の不適切な使用が挙げられています。そこで、国は 2016 年に薬剤耐性 (AMR) アクションプランを発表し、その成果の指標として抗菌薬(飲み薬)の使用量削減を掲げています。抗菌薬(飲み薬)は、手術部位の感染 (SSI) 予防に使用されていますが、抗菌薬を予防的に使用する期間に関しては、長期間の抗菌薬の使用が SSI 発生率を低下させる根拠は乏しいといわれています。しかし、当院では手術において注射の抗菌薬の使用に加え、飲み薬の抗菌薬が長期間使用されている場合があり、漫然とした抗菌薬の使用は患者さんの副作用や耐性菌の発生リスクを増加させる可能性があり、すなわち、抗菌薬の使用量の削減がこれらリスクの低減につながると考えています。そこで、我々は SSI の予防に対して抗菌薬(飲み薬)の中止を提案するなど、抗菌薬(飲み薬)の使用量削減に向けた取り組みを始めました。

本研究では、この取り組みによる成果として SSI 発生率、抗菌薬の使用量変化、耐性菌の発生率、薬の感受性変化や抗菌薬の使用量変化を調査し、評価します。

【調査の対象となる患者さん】

2013 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日までに手術が行われた患者さんを対象としています。

【研究方法】

調査の対象となる患者さんについて、電子カルテ (IBM) より調査を行います。

【調査項目】

年齢、性別、既往歴、体温、食事摂取量など、患者さんの基本的な情報、診療記録、各種

血液検査値、薬物の投与と使用量、細菌培養結果等。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化します。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 木村博史

【研究実施体制】

研究機関: 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者: 助教 飛鷹 範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号: 089-960-5731

研究分担者: 職員 黒河 幸朗

薬剤部長 田中 守

室長 木村 博史

職員 矢野 賢明

職員 泉 智樹

職員 川上 幸伸

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いて欲しいという方は、下記の連絡先までお申し出下さい。また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は、下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答え致します。

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 飛鷹 範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号: 089-960-5731